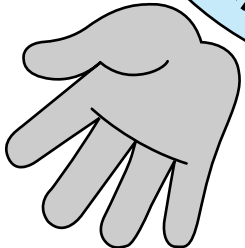
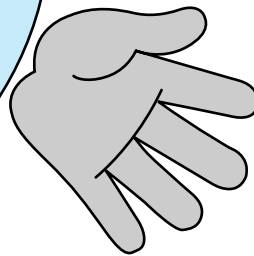


生涯空手道と人材育成を目指して



白川空手道スポーツ少年団は、団員15名で空手道の練習に汗を流しています。

「礼節」「健康」「友情」を方針に掲げ、人格形成を図り、忍耐力、精神力を養い、生涯にわたり維持できることを目指しています。同時に21世紀を背負って立つ人材育成にも力を入れています。

各種大会には積極的に参加しており、白石大会、糸東会東北大会、県大会などで上位入賞者を出しています。

練習は週1回(毎週火曜日午後6:30から8:30まで)白川公民館2階で行っています。入団希望の方は、練習日に気軽にいらしてください。

(師範：我妻勇、指導員：佐藤真樹、連絡先・団代表：日下廣久 ☎27-2108)



市民文芸

応募方法

一人俳句三句、短歌三首、川柳三句以内。はがきに作品・住所・氏名・応募する地名をはっきり書き、〒989-0257白石市字亘理町37-3、白石市情報センターへ。短歌、俳句、川柳の併記は不可。毎月15日締め切り。Eメールでも応募できます。(koho@city.shiroishi.miyagi.jp)

歌壇

高橋 辰男 選

退院を待ちて夫の好物の栗ぶかしせんと嫁と皮むく 太田 敏子  
刈り終えし稲田の道に車止め余所の老母等蝗 八島 三郎  
追ひ居り 何処より這入り来たるかおろぎは足病む妻の枕辺に鳴く 高野 伝  
シドニーの五輪に惚ぶ亡き姉は人見絹枝と競 岡崎 澄子  
いたりなき 赤々と燃ゆるが如き曼珠沙華花なき野辺を色どりて咲く 大津 重子  
ひつじ雲の合間より照る十三夜金木犀の香る夕べに 八嶋 正子  
先生に従い孫等ははずみ行く今日は学校のさつまいも掘り 佐藤 ひで  
部屋々々を一巡りして黒揚羽吾が前に来てたおやかに舞う 石沢 敏子  
凜々と秋晴れの朝にそびえ立つ稜線眺めて長袖羽織る 古山 智子  
コスモスの咲く土手道を古い夫と夕焼け空を眺めつつ行く 佐藤 とく  
評一 首目。退院を祝う栗ぶかし。夫と妻と嫁三者の好ましい家庭環境がすつきり歌われた。二首目。よそから車で来てイナゴをとるのはよく見る風景。誰も文句は言わない。三首目。足病む妻を慰めるかのようなコオロギ。昔から虫の音に親しんできた日本の伝統を思う。

俳壇

遠藤 秋尾 選

芒原ひかりとなりて風走る 佐藤 周子  
乗客の片寄る谿の初紅葉 高橋 正男  
幸せをかみしみ歩く良夜かな 山家 弘子  
遠山に沈む夕日の赤トンボ 大庭 良子  
悲しみは後に来るものちのちの夜 日下 文

柳壇

山田 風流 選

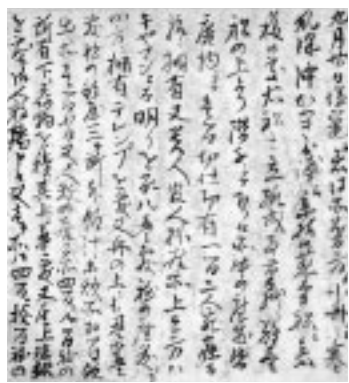
心から禁酒を誓う二日酔 平岡 大恵  
材質は汗と涙の金メダル 四電 英夫  
けん念期昔は我慢いま離婚 佐藤 武雄  
死に水は自分で取ると諦めた 大庭 良子  
美しく老いたし今朝も竹を踏み 米沢 礼子  
老いの身は昔ばかりをなつかしみ 鈴木 希市  
子の理屈なる程筋が通ってる 草野 清  
人間の都合で良い雨困る雨 川村 静恵  
百歳の秘訣を聞けば寿命です 小野嘉津子  
古タン入貯金箱へと昇格し 大沼 妙子  
評一 句目。一日酔いの苦しさは経験者でないのと分らない。「苦しいときの神頼み」に似て、心から禁酒を誓うのだが、人間は弱い。二句目。栄光は棚ぼたでは得られない、陰の努力があったこそ。材質と表現した作者はただ者でない。三句目。現代社会の世相をチクリ。忍耐、我慢が人生の味、夫婦の仲を深めるのだが、「えくぼまであはたに見えるけん急期」離婚は最後でいい、熱い湯もじっと耐えていけば、いいお風呂となります。

白石の古文書 ⑧

弘化安政耳袋 2 武藤家文書

開拓第二陣の安斎惣十郎が、札幌から発信した書状である。白石の人たちが蒸気船に初めて乗った驚きを、この書簡は伝えている。用語に不明なところもあるが抄訳すると……

一行二〇六名は九月二十日暮れ方より小舟に乗り、寒風沢沖の蒸気船・庚午丸に乗り移ったが、この船の立派なことを筆紙に尽くし難いと、まず最初に書いてある。船の上(甲板)よりはしこで降りると座敷になっている。座敷はみな唐物(洋風のこたか)で、一間仕切りになっており、一間に二人ずつ寝る棚がある。貴人や官人たちの座敷は八畳敷ほどで、上の方はギヤマン(ガラス)で明かりを取り、四方に棚があり、テランプ



を敷く。(テランプを置く?) 船の中には二便所(大小)が三カ所あり、据風呂は二つ、水箱(飲料水?)二つ、ほかに船底にも水を入れる所がある。帆柱は二本で、黒塗りの帆柱の上には日の丸を掲げ、ヘシリ(船尾)にも同じ旗を掲げている。夜は帆柱の上のギヤマンへ明かりをつける。(原文のまま)石炭を焼、釜(機関室)より煙の上がる物あり(エントツ)、銅製で廻り言文程(三・三メートル)高さ式文余、船の左右には小舟(ボート)が二つずつあり、綱にて上げ下げする仕懸(滑車)はみな真鍮で、時計のように廻り、その仕組は筆紙には尽くし難いとある。

また、船が走るときは車の回る音がして、船の左右から滝のごとく水が出て走る。これは船の底の車(スクリュー)が、水をかき揚げるからだと記す。さらに船内の食事のことなど、その見聞は驚きに満ちている。庚午丸は函館に入港し、開拓第一陣を收容して小樽に無事到着する。書簡はまだ続き、開拓村の状況を詳細につづっている。(白石市図書館所蔵)

国際コーナー International Corner



カロラインの



あと1カ月で2000年が終わり、21世紀に入りますね。皆さんにとって、2000年はどのような年でしたか?楽しみましたか?私にとってはとても楽しい年で、あっという間に終わってしまった感じがしています。今年も仕事の面では、いろいろな面白い行事に参加しました。

10月末、あしたば白石で開催された「みやぎ県大学 in 白石」に講師として参加しました。テーマは「アイルランドの男女平等と郷土料理」でした。両方の話題にあまり詳しくない私はとてもドキドキでしたが、無事に終わりました!

アイルランドの料理はジャガイモを使う料理が多いので、ジャガイモを使って皆でチキンシチューという代表的な料理を作りました。シチューはとても簡単に作れる料理で、アイルランドでは、冬によく食べる料理です。

アイルランドの料理の味付けは、ほとんど塩とコショウだけなので、日本人の口に合うかどうかとても心配でした。日本の料理だったら、しょうゆとかみりんなどを使って、味付けをしますよね。

それで、塩とコショウだけで何か足りないと感じるかなと不安でした。しかし、料理が上手な皆さんに「オイシイ」と言われて、安心しました!もちろん私にとって、とてもおいしくて、懐かしい味でした!

それじゃ、皆さん風邪を引かないように気を付けて、クリスマスとお正月を楽しんでください!来年も「国際コーナー」を読んでくださいね。

